

井上円了歴史旅行データベース

森洋久・三井大輔・藤田晴啓

A Historic Travel Database of Inoue Enryō

Hirohisa MORI, Daisuke MITSUI and Haruhiro FUJITA

Abstract: For easy understanding and further research on history and geography, a visualized database of Enryō Inoue's three round the world historic travels during the late 1800s and early 1900s was established. The travel scripts in old Japanese in Meiji Era was translated to the modern language, and the travel records were classified as dates, visiting cities, countries, weather, detail descriptions including meetings with people. The complicated travel routes in the three long itineraries were visualized and easily understood by the 240 questioned students. The historic travel is visually comparable with modern travels, when one uses the COSMOS browser.

Keywords: 歴史旅行データベース (Historic travel database), 井上円了 (Inoue Enryō), 明治期 (Meiji Era)

1. はじめに

哲学者・教育者・思想家であった井上円了(1858～1919)は、世界に関する見聞・知識が乏しい明治時代、三度の世界視察旅行を行い、見聞をそれぞれ「欧米各国政教日記、上・下」(1889)、「西航日録」(1904)、「南半球五万哩」(1912)に著した。これらは、100～124年前の訪問国における風土、社会、政治、経済、宗教を記述した歴史資料である。この歴史旅行記をわかりやすく理解し、さらなる研究に資するため、データベースを構築した。

2. 資料の記述内容とデータの整理

2.1 第2回(1902年11月15日～1903年7月27日)および第3回(1911年4月1日～1912年1月22日)「西航日録」(1904)および「南半球五万哩」(1912)は日記形式の旅行記である。記述は明治時代の書式であり、これを現代日本語に翻訳し、旅行データは年月日、訪問地、訪問国、天気、現地詳細(現地での会見を含む)の項目毎に整理した。

2.2 第1回(1888年6月9日～1889年6月28日)

「欧米各国政教日記、上・下」(1889)は現地で取材した政治・宗教・社会・文明・民俗等の題材ごとにまとめられており、日記形式の訪問地順の記述はみられなく、旅行行程が同定できない。一方、三浦節夫は当時の新聞・雑誌に記載された井上円了に関わる記事からこの世界旅行のおおよその行程を「井上円了『世界旅行記』補遺 一第一回欧米視察の旅行日録一」(2005)に記した。この内容を旅行データとして整理した。データの整理方法は第2回および第3回旅行に準じた。

3. 旅行行程の可視化

地球地図上に汽船アイコンと年月日を表示し、旅行行程を可視化したデータベースを構築した。

3.1 第1回世界旅行の行程

第1回は、日本から太平洋を横断し北米、大西洋を横断し西欧の多くの都市を訪問滞在、地中海スエズ運河を通過し、アラビア海から東南アジア経由にて中国を経て一年余をかけ帰国している。

3.2 第2回世界旅行の行程

第2回は、西回りで、日本から中国経由でイン

ド東部に上陸、北東部を旅行し、インド西部から乗船、アラビア海経由でスエズ運河を通過、地中海から西欧に上陸、東欧まで旅行した後、大西洋を横断し、北米を第1回とは逆の行程で旅行、太平洋を横断して八ヶ月余をかけて帰国している。

3.3 第3回世界旅行の行程

第3回は南半球回りの航路を利用している。日本から中国経由で、フィリピンを経てオーストラリア大陸東海岸に沿って諸都市を訪問南下。南部およびタスマニアの都市を訪問。南西部のアルバニーからインド洋を横断、南アフリカに上陸。喜望峰を回り（図-1）、アフリカ大陸西岸を北上、ロンドンに上陸。西欧および北欧の北極圏の町を訪問。ロンドンに戻り、大西洋を横断、リオデジヤネイロから南下、南米一周の航路を利用する。中米・ハワイ経由で十ヶ月余かけて帰国する。

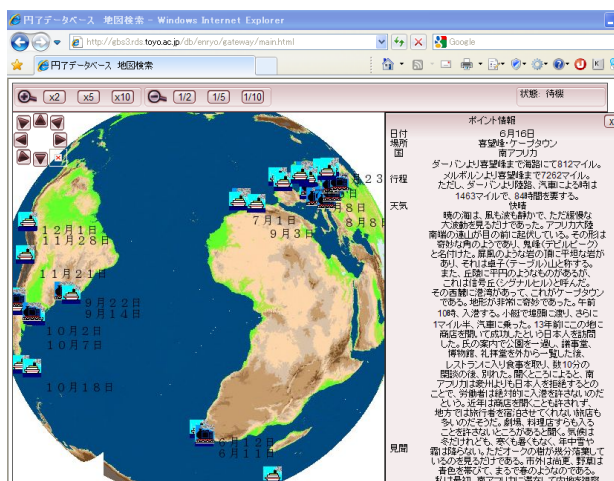


図-1 第3回世界旅行-喜望峰訪問-

表-2 歴史旅行データベースの理解のしやすさ

	とても易しい	まあ易しい	普通	やや難しい	とても難しい	計
クラス1	2	22	18	2	1	45
クラス2	6	30	10	2	1	49
クラス3	4	18	19	8	4	53
クラス4	3	25	15	5	2	50
クラス5	6	20	13	3	1	43
計	21	115	75	20	9	240

$$\chi^2 = 18.857 \quad (df = 16, \quad p = 0.05, \quad \chi^2 = 26.296)$$

作成した歴史旅行データベースの理解しやすさを検証するため、2008年10月に東洋大学国際観光学科一年生240名に対し5クラスで質問調査を実施した。表-1にその結果を示した。

まあ理解し易いと回答した頻度は115（48%）と中心となり、とても理解し易いと併せると全体の57%となる。5%水準でクラス間での評価の比率が有為と異なるとは認められなかった。

4. おわりに

井上円了の世界旅行は、当時の外洋航路を多く乗継いでおり、特に欧米では多くの人を訪ね、滞在期間が長く、しかも記述量が多い。明治時代の書式で長編の旅行記を読解するのは非常に困難である。地球地図上の訪問地にアイコンおよび訪問月日を表示することにより、毎回の世界一周旅行経路が可視化でき、旅行の理解に役立ったものと考えられる。COSMOS GLOBALBASE ブラウザで閲覧を行なうと、同じ地図空間に存在する、世界遺産旅行ベース・世界宗教遺産ベース等が同時閲覧でき、井上円了の100～124年前の各都市の見聞と現代の旅行における見聞を比較できる。本論文は藤田（2009）報告の補遺として、旅行経路の可視化に関する新たな所見を執筆した。

参考文献

- 井上円了（1889）：「欧米各国政教日記、上・下」（絶版：「井上円了『世界旅行記』」に掲載）
 井上円了（1904）：「西航日録」（絶版：同上）
 井上円了（1912）：「南半球五万哩」（絶版：同上）
 井上円了（2003）：井上円了「世界旅行記」東洋大学井上円了学術記念センター編
 三浦節夫（2005）：「井上円了『世界旅行記』補遺－第一回欧米視察の旅行日録－」東洋大学井上円了記念学術センター編
 藤田晴啓（2009）：井上円了世界旅行記のサイバートラヴェル化と教育効果 現代社会研究第7号 49-56 東洋大学現代社会総合研究所